

会津若松市総合計画審議会（第8回）議事要旨

- 1 日時 平成28年7月6日（水）13時15分～14時45分
- 2 場所 ホテルニューパレス 白雲
- 3 出席者 委員14名
オブザーバー 2名
事務局：企画調整課長、企画調整課職員4名

（次第）

- 1 開会
- 2 議事
 - （1）第8回総合計画審議会進め方について
 - （2）第7次総合計画（素案）の審議経過について
 - （3）パブリックコメント結果について
 - （4）重要業績評価指標（KPI）の設定と行政評価による進行管理について
 - （5）第7次総合計画（素案）の確認について
- 3 閉会

▼開会（進行：事務局員）

▼議事（進行 会長）

- （1）第8回総合計画審議会進め方について（別紙資料に基づき事務局より説明）

※各委員了承

- （2）第7次総合計画（素案）の審議経過について（別紙資料に基づき事務局より説明）

- （3）パブリックコメント結果について（別紙資料に基づき事務局より説明）

（主な質疑）

【委員】

県立病院跡地についての意見、要望がある。県の土地である現在、どのような方向性となっているのか。

【事務局】

現在、県の土地であり建物は今年度解体となる。県からは市の利用の可能性について照会がきている。また、商工会議所からは武道館を同地に誘致という要望が県に提出されている。

(4) 重要業績評価指標 (K P I) の設定と行政評価による進行管理について
(別紙資料に基づき事務局より説明)

(主な質疑)

【委員】

待機児童数について、潜在的待機児童数も K P I に組み込んで欲しい。

【委員】

潜在的なので表せないのではないか。

【委員】

再生可能エネルギー発電施設設備容量の数字の根拠は何か。

【事務局】

確認して次回報告する。

【委員】

毎年 K P I で進行管理することのだが、結果は市民に知らせるのか。

【事務局】

第 6 次総合計画においても行政評価システムを通じて公開している。また、毎年度作成する各部運営方針書でも示している。

【委員】

K P I の数値について市民から意見があった場合、どのような方法で意見を取り入れるのか。

【事務局】

今後、その方法について検討していきたい。

【委員】

公共交通関係の K P I で現状値と目標値の数字が変化しないのはどうしてか。

【事務局】

今後、人口が減少すれば利用者は減ることになる。そのため、現状を維持していくという考えから、変化がないものである。こうした考えについては文章で示していきたい。

【委員】

観光客入込数はイベントなどで増やすという考えか。

【事務局】

地域資源を活用した魅力づくり、イベントを含めた観光誘客、近年盛り上がりつつあるインバウンドなどを組み合わせて、増加させる考えである。

【委員】

不登校の出現率は、目標値としてはゼロに設定すべきではないか。

【事務局】

大きく捉えると、この指標で良いのかという問題があるので、所管課にもう一度確認する。次期総合計画においては、達成可能な数字を設定しているが、さらに精査させていただきたい。

【委員】

代理変数をとらざるをえない施策もあり、やむを得ない部分はある。

【委員】

審議会における女性委員の割合は50パーセントとすべきなのではないか。

【事務局】

現在、市で定めている審議会等での女性委員登用割合の目標を達成していこうという意図から、この数値を設定している。

【委員】

事業の達成度を判断する一つの目安としてのKPIであることを、各委員の共通認識として持つべきである。

(5) 第7次総合計画（素案）の確認について（別紙資料に基づき事務局より説明）
（主な質疑）

【委員】

「2 生涯にわたる学びと活躍の推進」には、多様性や個人の尊重という文言を入れたらどうか

【委員】

「3 生活の基盤となる雇用の創出」という施策があるが、「雇用」の表記では一次産業や自営業者が含まれないのではないか。

【委員】

いろいろな人が支えあうユニバーサルデザインの視点を入れてはどうか。

【委員】

「7 災害や危機への備えの強化」については、自然災害だけでなく、テロやサイバー攻撃も含めて考えるべきである。また、減災の備えや災害時の体制についての言及を加えたらどうか。

【委員】

「8 地域の活力を支える都市環境の維持」に関連して、市民に情報を流す際に誰にでも簡単に、いつでも情報が利用可能という、情報のユニバーサルデザインの考えが大切ではないか。

【委員】

公共施設の記載について、施設整備に伴う記載の問題は、人口減少で分母が小さくなると、一人当たりの負担が大きくなることを見込んだ記載にして欲しい。

【委員】

医療、福祉、保健、教育などあらゆる手段を使って出生率を上げていくというような記載が必要だと思う。

そのために行財政基盤をしっかりと持続可能な社会をつくる必要がある。財政の中で一番多くを占める民生費を圧縮する手段として、元気な高齢者の活用や生活保護の削減が必要であると思う。

【委員】

狭義での少子化対策は既に充実しているが、政策を総動員した広義での人口増加対策が必要である。財政赤字を減らすことが少子化対策にもなると思う。

【委員】

計画に健常者の視点は多いが、弱者の視点を加えるべきではないか。

【事務局】

いただいた意見については、再度精査するとともに最終的に正副会長と調整していきたい。

本日の議論をまとめると「多様性」「ユニバーサルデザイン」「持続可能性」の視点のお話が多くあったと思う。次回答申案を示したい。

⇒（各委員了承）

▼閉会（事務局）